ミュージアム通信

小川原脩記念美術館　☎21-4141
観覧料：一　般　500円（400円）
　　高校生　300円（200円）
　　小中学生　100円（50円）

倶知安風土館　☎22-6631
観覧料：一　般　200円（100円）
　　高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
　入館は16時30分まで
※（　）内は10名以上の団体料金
6月の休館日　毎週火曜日

展覧会のお知らせ

■第1展示室

開館25周年記念小川原脩展「遥（はる）かなるイマージュ」

会期：開催中～9月23日（月・振休）

■第2展示室

小山内無石　書　個展

会期：開催中～7月7日(日)

■ロビー展示

北口さつき　5Elements ～空風火水地

自然からの着想でパワフルな創作活動を続ける町在住の画家・北口さつきさんの新作を、ロビーの壁面いっぱいに展示します。

会期：6月1日(土)～6月30日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

マリンバ・コンサート「5 Elements Story」

北口さつきロビー展とのコラボ企画。作品のイメージから連想したプログラムを華麗なマリンバの音色でお届けします。

日時：6月22日(土)14時～15時
会場：ロビー（無料・予約不要・先着70席）
出演：井原由加子さん（マリンバ奏者）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム

「草花スタンプでオリジナルトートバッグを作ろう！」

日時：6月8日(土)13時30分～16時30分
集合：倶知安風土館※要予約　定員：10人
参加費：300円（材料費）　講師：小田桐亮（風土館学芸員）
予約受付：6月1日(土)までに電話申込（☎22－6631）

■倶知安いきもの調査隊「ヒナコウモリ個体数調査会」

日時：6月21日(金)18時30分～21時
集合：百年の森※予約不要　定員：なし　参加費：無料
講師：小田桐亮（風土館学芸員）、宮﨑守（百年の森管理人）

■ふるさと探訪「手鏡沼湿原の植物を見に行こう」

日時：6月29日(土)9時～12時（少雨決行）
集合：倶知安風土館※要予約　定員：10人
参加費:250円（保険料）　講師:藤田豊さん（北方山草会会員）
予約受付：6月18日(火)までに電話申込（☎22－6631）

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ「葉っぱ観察とたたき染め」

前庭の樹から取った葉っぱを観察して、たたき染めをします。

日時：6月15日(土)10時～12時　会場：倶知安風土館　定員：15名※小学2年生以下は保護者同伴
参加費：無料　講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）
申込：美術館に電話申込（☎21－4141）

カフェとギャラリー　前編

私が美術館を好んで巡るようになったのはここ数年のことで、同時期に好きになったものがもう一つ、それがコーヒーでした。

コーヒーについて語り始めたら切りがなくなりそうで止めますが、最近では美術館巡りや食べ歩き、その他もろもろの所用の際も、おいしいコーヒーが飲めるカフェはないものかと、つい探してしまうように。

そんな折、札幌にあるカフェとギャラリー（いわゆる、絵画を展示・販売する「画廊」ですね）を兼ねたお店から、当美術館に度々フライヤーを頂いておりました。ずっと気にはなってはいたもののなかなか都合がつかず、先日やっとお邪魔することができました。いささか緊張しつつもいざ入店してみるとそこには・・

などと書いているうちに紙面が尽きてしまいましたので、今月はここまで。次号に続きます。（オチが無くてすみません）

館長　福原（ふくはら）秀和（ひでかず）

感動の一点

『群れ』
1990年　小川原　脩　画
（武内コレクション）

当館の所蔵作品は大きく二つのコレクションに分かれています。一つは、もちろん「小川原脩コレクション」、画家自身が手元に残していた作品群を収蔵したものです。

もう一つが「武内コレクション」と呼ばれるものです。こちらは故・武内一男氏が個人のコレクションとして蒐集（しゅうしゅう）した美術作品103点で構成されています。好きな作品を蒐集したコレクションは、自宅や居間などのプライベート空間をさり気なく彩り、生活に潤いを与えてくれるものです。選ぶ人の好み、考え方、人格までもが反映されると言ってよいでしょう。

今回ご紹介する本作も、武内コレクションからの1点です。1990年、小川原脩が79歳の時に描いたもの。1986年に訪れたインドの印象を、すがすがしい色彩で表現しています。まるい樹形、無数の鳥。頭に荷を乗せて運ぶ人々には異国の雰囲気が漂います。穏やかだけれども、程よいにぎやかさもあり、心地よい魅力的な作品として、武内コレクションに加わったのだと思います。

文：沼田　絵美（小川原脩記念美術館　副館長）

ふるさと探訪

ブルーメタリックな毒虫

494回

春か秋、山を歩いていると青い金属光沢をもった昆虫を目にしたことはないでしょうか。ツチハンミョウと呼ばれるコウチュウの仲間で、体長2㌢ほど、腹部が非常に大きいため飛べない、ずんぐりむっくりした体型の昆虫です。

ツチハンミョウは体内にカンタリジンという毒成分を含み、皮膚に触れると水ぶくれや痛みを生じます。刺激を受けると体を丸め、脚の関節からオレンジ色の液を出すことが多いため、触らないよう注意が必要です。

さらに、生態はもっと変わっています。ツチハンミョウの幼虫はマルハナバチ類の巣に寄生して育ちますが、そこにたどり着くまでは運任せ。メスの産み落とした数千個の卵から生まれた幼虫は孵化（ふか）してすぐに植物の花や葉先に集まり、何かしらの生き物がやってくるのを待ちます。やってきた生き物が目的の虫であれば晴れてエサに在り付けますが、そうでなければ命尽きることになります。産み落とされる卵の数が、昆虫の中でも桁外れに多いのはこのためと考えられています。

そんな暮らしのツチハンミョウ、出会えた偶然にうれしくなります。

文：小田桐　亮（倶知安風土館　学芸員）

▲葉の先に集まった
ツチハンミョウの幼虫

▲ツチハンミョウの成虫